

<目次>

特集

地域開発(県計画)の指標

- ひらけゆく天草 8
- 天草五橋のすべて 15
- 天草の旅 27

よこがお

- 協業養豚(新和町) 10
- 天草農業研究所指導 11
- 天草の真珠 12

- メモ 天草連絡道路 14

<ルポ> ここに人あり
島に生きる 25

- 随想 栗原利栄・上田滋穂・福田任秀 6

★グラビヤページ

若者のうたごえ/島の看護婦さん

特集/ 夢、かける橋・新産業風土記/水平焼・ほか

表紙 <天草西海岸の夕日> ともかくも天草灘の夕景は
茫洋として果しなく、おおらかにうねる黄色の波間に漂う漁船のシ
ルエットは北宗画の世界にも似てきびしく、それでいて華麗なのだ。

センターカラー <天草五橋> 空から見る天草五橋は箱
庭のように美しい。海と島の背の空間に水平に、あるいはゆるやかな
弧を描いてのびる五つの橋は、明日の天草に架ける希望のシン
ボル、にふさわしく近代感覚にみちみち溢れている。



看護婦の交換制度も

—天草郡竜ヶ岳町立上天草病院にて—
竜ヶ岳町高戸に、ひとときわもゲンで近代的な病院が建っている。竜ヶ岳町立上天草病院である。

ここには、平均年齢二五才という若さにあふれた二四名の白衣の天使たちが、きびきびと働いている。
看護婦たちの明るい応待は、ともすれば、暗く沈みがちな患者にとつて、またとない精神的な支えであり、それだけに看護婦たちが患者に注ぐ心づかいには細やかである。
ところで、この病院では二年前から、神奈川県川崎市市の病院と姉妹病院として手を結び、全国でも珍しい看護婦の交換制度をとり入

れている。これは、一つには島で働く看護婦の離島コンプレックスをとりのぞくという意味もあるが、第一の目的は、神経痛やリュウマチなど農漁村特有の病気の看護にかたよりがちな島の看護婦に、ノイローゼなどの、いわゆる都会病の知識や経験も修得させようといふもの。
これまで六名の看護婦の交換が行なわれたが、天草へ帰ってくる時には、組織化された能率的な看護技術を身につけてくる。
神奈川県から来た看護婦さんも、都会では経験することのできない知識や経験をつんでいるが、「天草の人たちは親切な人ばかりで、この美しい自然の中に生活すると、都会へは帰りたくありません。」と、天草を、そして島の医療看護の重要性を若い心に刻みつけるのである。



上・病室の窓の向うには海が見える。明るい部屋の中で患者の表情も心なしか明るい。今日は折鶴を折って楽しく……。



上・歩けない患者のつきそいで渚へ……絵のように美しい天草の夕ぐれだ。



下・病院の中に町の准看護学校がある。生徒たちに医療機械の説明を……。